

四万十町浦越地区で発生した地すべり性山腹崩壊とその復旧について（その1）

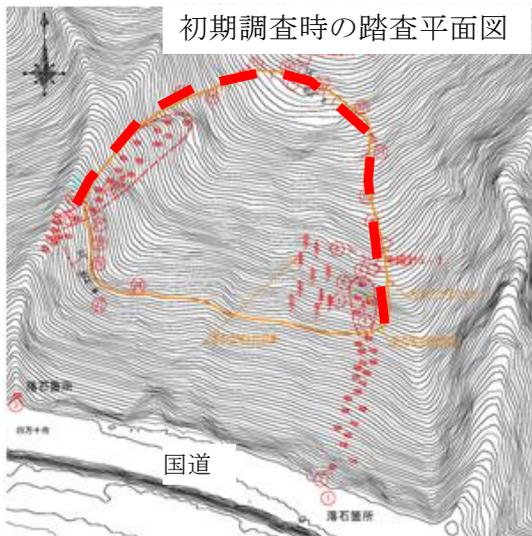
1. 崩壊の発生

平成28年5月26日に浦越地区の国道381号線で山腹からの落石が発生しました。

道路管理者である窪川土木事務所が山腹調査を行ったところ、道路から約50m程度上方に新しい山腹崩壊が更にそこから50m程度上方に高さ3m程度の滑落崖^{*1}が確認されました。

山腹崩壊や滑落崖が山林内で発生しているため、土木事務所から須崎林業事務所に対して情報の提供があり、その後の対応を窪川土木事務所と須崎林業事務所で行合しました。

山林内で起こっている現象は、頂部から馬蹄状に滑落崖及び亀裂が広がっており、地すべり性の崩壊であることが推測されました。そのため、発生機構を確認するためのボーリング調査を須崎林業事務所において平成28年7月に発注しました。



上部の滑落崖（赤破線）

元々①と②は同じ高さにあったと思われる

-----このページの用語解説-----

*1 滑落崖…地すべり地の上部現れる比較的急峻な崖面。

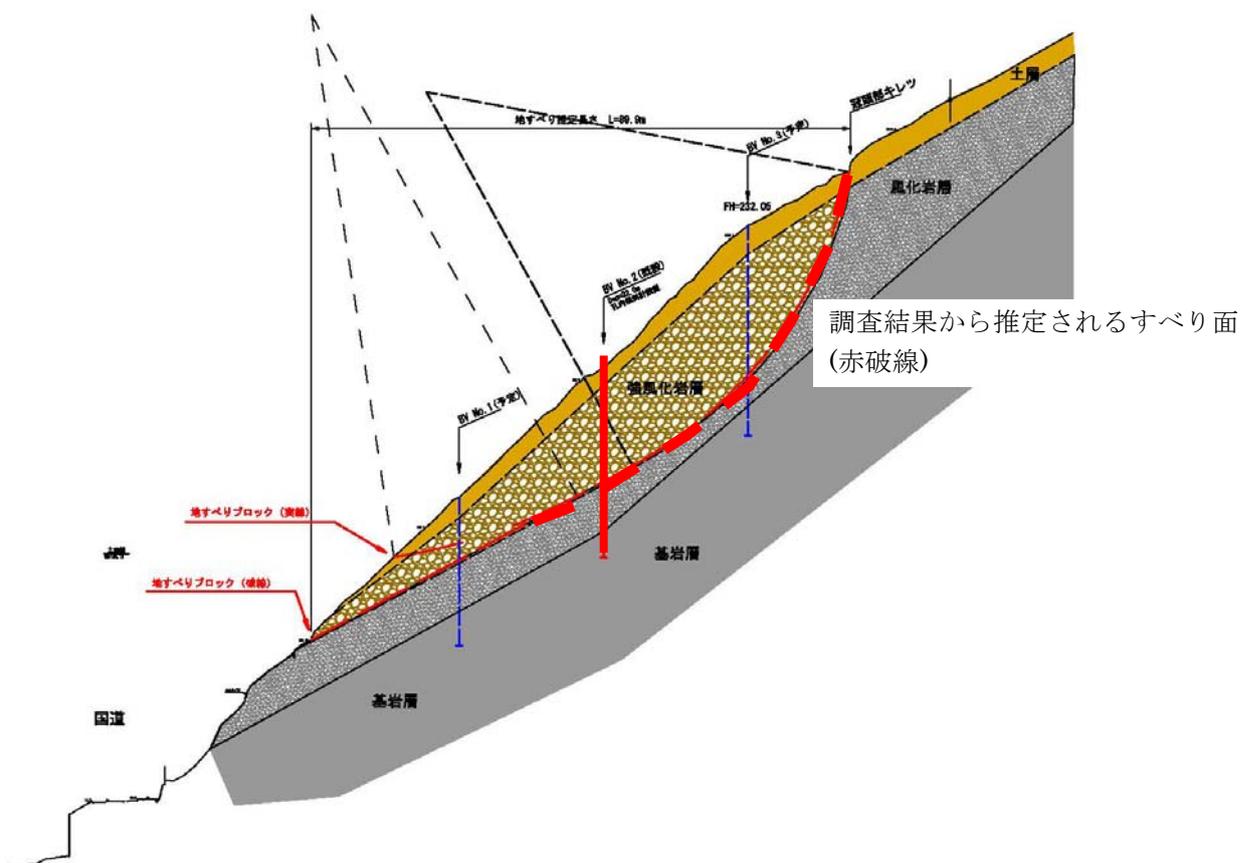
2. ボーリング調査と判明したこと

現象の規模からボーリング調査は3孔実施する事が望ましいと考えましたが、年度当初から計画されていた調査では無く、予算も限られることから先行して1孔ボーリング調査を行うこととしました。調査により以下の事が判明しました。

1. 地すべり現象ではよく確認される地下水が確認出来ない。
2. 孔内傾斜計の変位は降雨後の観測時に顕著に確認できる。
3. ボーリングコア(*2の観察及び孔内傾斜計(*3の観測から、すべり面の位置は地表下約19mにある。

浦越解析断面図 S=1/500

対策工計画



次回、その2では、調査結果を踏まえた対策工の概要（暫定）と復旧に向けての事業化についてを紹介する予定です。

-----このページ用語解説-----

*2 ボーリングコア…ボーリング調査の際にパイプ等により採取した円柱状の土層サンプル。

*3 孔内傾斜計…地中動態調査を行うための機器の一種。

ボーリング孔に測定用のガイド管を設置し、計器（プローブ）によりガイド管の変位量を測定してすべり面の検出等を行うことが出来る。

今月の浦越復旧治山工事

復旧工事を実施する事でどの様に変化していくのかをお知らせしたいと思います。
※画像は大体同じ範囲が示せるように加工しています。



- 工事で4月に実施している主なこと
 - 施工範囲の測量・立木の伐採
 - 資材搬入用のケーブルクレーン架設準備
 - 安全対策の為の落石防護網・伸縮計の設置準備 etc